

あとがき

平成9年度に開始した地域結集型共同研究事業も多くの新たな知見や技術開発・新企業創出を得て、委託研究期間が終了致しました。

本事業は、産学官連携による共同研究とその成果の事業化・企業化を行うものであります。このような事業は、今でこそその必要性が大きく論じられておりますが、本事業が始まりました5年前には非常に野心的な試みとしてとらえられており、本県にとりましても、新たな挑戦でありました。

このため、事業の推進に当たっては、当初より手探り状態であり、多くの試行錯誤がございましたが、このような形で委託研究期間が終了することは、望外の喜びであります。これもひとえに、科学技術振興事業団の暖かいご指導や「霞ヶ浦をきれいにしたい」という情熱に支えられた参画研究者・企業のご尽力の賜ものと考えており、この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

本事業の技術的な成果については、本報告書に述べてありますので、繰り返すことはいたしません。この委託研究期間中に、多くの方々との議論や共同作業を通じた中で人的・組織的なネットワークが構築できたことは、今後の施策展開や地域COEの構築に当たって、大きな財産となるものと考えております。

また、本事業の成果の一部は、自治体の政策に反映されており、本事業が単なる技術開発・新産業創出の域にとどまらず施策提言まで視野に入れた研究事業であったことは、本県事業のユニークさを示すものであり、誇るべき成果であると考えております。

環境保全・修復ための技術の普及には、地域住民の方々の理解が不可欠です。幸い霞ヶ浦流域は平成7年に開催された「第6回世界湖沼会議」を契機として、水質浄化に係る住民活動が活発に展開されております。今後は、今回構築された産学官のネットワークを拡充し、民のネットワークを加味して、霞ヶ浦流域が環境に関する研究・産業・学習と情報発信の場となるような地域づくりを行って参りたいと考えております。

本委託研究期間内に培いましたこれらの多くの成果や産学官民の連携手法などにつきましては、霞ヶ浦の一層の水質浄化に役たてて参りますと共に、平成17年度竣工の霞ヶ浦環境センター（仮称）に継承して参りたいと考えておりますので、関係各位におかれましては、引き続きご支援ご協力のほど、よろしくお願い致します。